

北九州市議会議員 大久保むが

市政レポート

かわら版

北九州市八幡西区則松二一九一
TEL 〇九三一一八六三一一五五三〇
FAX 〇九三一一八六三一一五五三三
http://www.mugamuga.net/
E-mail yahatani@mugamuga.net

大久保むが事務所

北九州市八幡西区則松二一九一
TEL 〇九三一一八六三一一五五三〇
FAX 〇九三一一八六三一一五五三三
http://www.mugamuga.net/
E-mail yahatani@mugamuga.net

あ、子育て支援を前進させよう!

平成27年9月現在の保育所入所状況
(区別：北九州市作成)

地区名	保育所数	定員	入所児童数	入所率
門司区	18	1,710	1,689	99%
小倉北区	35	3,515	3,495	99%
小倉南区	35	3,535	3,641	103%
若松区	14	1,380	1,317	95%
戸畑区	11	1,150	1,181	103%
八幡東区	13	1,310	1,387	106%
八幡西区	37	3,855	4,038	105%

待機児童の状況
(平成26年度、27年度：北九州市作成)

	平成26年		平成27年	
	4月	10月	4月	10月
入所児童数	15,941	17,166	16,237	17,459
民衆所児童数	479	1,037	504	1,027
(内数) 待機児童数	0	246	0	139



本市議会でもこれらの課題解決へより一層議論を深めていかなばと考えます。

一、北九州市の保育環境について

保育園の数や定員に対して、左記の表からも分かるように入所率は年度途中で徐々に増えていき、9月の時点では若松区を除いてほぼ満杯の状態となっています。

待機児童の定義は、希望する保育園以外にも入ることができない状態の児童の事で、北九州市の待機児童数は平成28年現在で139人。

待機児童の八割が大都市圏に集中されている状況で、本市では待機児童の数は定義の上では少なくなっています。しかし、希望する保育園以外にも空きがある保育園へ入所していない未入所児童数はほぼ横ばい状態です。また、新たに保育園への入所を諦めている人達潜在的待機への需要を喚起することに繋がるの見解もあります。

さらに新たに設置した施設の場所が、不足している地域の需要に比べられる場所でないこともあり、必ずしも利用者の希望に叶わないという課題もあります。

国も保育士の処遇改善策や企業内保育所の新しい枠組みについての検討をはじめとしており、こうした子育て支援策が徐々に進んでいくように国においても一層の議論を期待したいところです。

「保育園落ちた、日本死ね」という衝撃的なブログが全国的に報道され、この話題が国会などでも取り上げられるなど、改めて現在の子育て支援がどのようになっているのか注目を浴びています。

そこで、北九州市の子育て支援状況と、平成28年度予算で示されたこれからの取り組みについて考えてみたいと思います。

待機児童対策として、市は受け皿の確保を行ってきました。昨年度は認定子ども園への移行、事業所内保育所、保育所の新・増設、小規模保育所などで397人増。今年度は昨年と同様の取り組みを更に拡充し、34ヶ所982人の定員拡大に向けた予算が編成されました。

二、子どもの居場所づくりを推進

平成23年の母子世帯実態調査では、本市の母子家庭の数は15,733世帯、父子家庭は2,221世帯あるとされています。国はこうした精神面や経済面で深刻な状況にあるひとり親世帯に対して、子どもの居場所づくりを通じて生活の向上を図るべく方針が打ち出されました。これに基づき、本市でも今年度から始まる新規事業として、「ひとり親家庭の子ども居場所づくり事業」がスタートします。これは、ひとり親家庭の子どもに対し、親が帰宅するまでの間、学習支援や食事の提供等を行う居場所づくりを推進するものです。

この子どもの貧困については昨今新聞などでも報じられていますが、平均的な可処分所得(いわゆる手取り年収)の半分(2012年、4人世帯で244万円)を下回る世帯を「相対的貧困層」として厚生労働省は定義をしています。国民生活基礎調査に基づいて全国25,400世帯からサンプルを収集し割り戻した割合が16.3%、およそ6人に1人が子どもの貧困状態であるとされました。一方、福岡県ではこの率が23%と九州の中でも最も悪い数字となっています。では北九州市における子どもの貧困はどのくらいなのでしょう。北九州市は個人情報関係で、福岡県の就学援助の受給者数のデータは利用できず、国のサンプルも地域差があるため、正確な数字や割合が導き出せていない状況にあります。従って現在の国の制度を活用して、主にひとり親家庭の子どもの居場所づくりを主眼に置いた考え方の中にも、いわゆる子ども食堂が含まれていると考えられます。

三、子どもの医療費支給制度が大幅に拡充



平成28年10月から、福岡県の医療費支給制度の拡充が行われます。これを受けて本市の医療費支給制度の内容が変わりました。

そこで北九州市の医療費支給制度について、今回の制度改正でどのように変わったのかを比較しました。

8、3億円の負担増となる事から、引き上げに際して一定の自己負担を設ける事で一般財源にかかる負担分を4、9億円まで縮小しました。

特徴的なところでは、これまで無料だった3歳〜就学前の通院費用が小学校6年生までに大きく引き上げられたこと、それに伴ってこれまで自己負担があった小中学生の通院費が無料になるなど、制度の拡充によって保護者の医療費負担が大幅に軽減されることになりました。

今後はインフルエンザワクチンなどの助成について、一層の補助や支援の仕組みができるよう自身の取り組みとして、今後取り組んで参ります。

しかし、制度の引き上げによって生じる財政負担はこれまでの制度に比べ一般財源で

分所得(いわゆる手取り年収)の半分(2012年、4人世帯で244万円)を下回る世帯を「相対的貧困層」として厚生労働省は定義をしています。国民生活基礎調査に基づいて全国25,400世帯からサンプルを収集し割り戻した割合が16.3%、およそ6人に1人が子どもの貧困状態であるとされました。一方、福岡県ではこの率が23%と九州の中でも最も悪い数字となっています。では北九州市における子どもの貧困はどのくらいなのでしょう。北九州市は個人情報関係で、福岡県の就学援助の受給者数のデータは利用できず、国のサンプルも地域差があるため、正確な数字や割合が導き出せていない状況にあります。従って現在の国の制度を活用して、主にひとり親家庭の子どもの居場所づくりを主眼に置いた考え方の中にも、いわゆる子ども食堂が含まれていると考えられます。

	旧制度	新制度
制度名	乳幼児等医療費支給制度	子ども医療費支給制度(名称変更)
助成対象	通院：小学校就学前 入院：中学校3年生まで	通院：小学校6年生まで(H28.10～) 入院：中学校3年生まで
自己負担 (薬代は無料)	3歳未満：無料	3歳未満：無料
	3歳以上～就学前 入院：無料 通院：無料	3歳以上～就学前 通院：600円を上限(H28.10～) 入院：無料
	小学生 通院：制度の対象外 入院：500円/日(月7日上限)	小学生 通院：1200円/月(H28.10～) 入院：無料(H28.10～)
	中学生 通院：制度の対象外 入院：500円/日(月7日上限)	中学生 通院：制度の対象外 入院：無料(H28.10～)
所得制限	3歳未満：なし 3歳以上：あり ※子供が2人以上いる世帯は免除	3歳未満：なし 3歳以上：なし(H28.10～)

※ 部は今回変更や拡充が行われたところ。



福岡市城南区の子ども食堂を視察(4/26)

「根が深い貧困の連鎖」

貧困問題を解決するには格差の少ない社会を目指す必要があります。現時点に今現在こどもの貧困と言われる状態に置かれている子供たちに対しては、格差が新たな格差の連鎖とならないように、社会で支える仕組みづくりを行う必要があると考えます。

北九州市がどのような事業を行うかは現在検討中であり、まだ具体的な形は示されていませんが、今後私たち党派としてもこどもの貧困とその対策について、より一層の研究をしていき、しっかりとした提言を行って参ります。

The Democratic Party

民進

Minshin Press (民主改題)

号外

民進党 民進プレス編集部

〒100-0014

東京都千代田区永田町1-11-1

電話 03-3595-9988(代表)

メール press@dpj.or.jp

URL https://www.minshin.jp

キタQに
無我夢中



No.28
初心を忘れないの巻



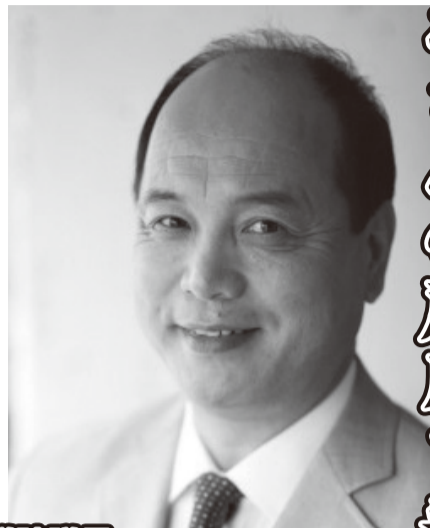
『若者の願いを、
努力が報われる社会をめざす』

みなさんの雇用を守る



民進党福岡県参議院選挙区第1総支部

総支部長 古賀ゆきひと



前参議院議員

とどろき利治

全国の同志が力を合わせて、働くみなさんの声をとどけます



矢田わかこ



はまぐち誠



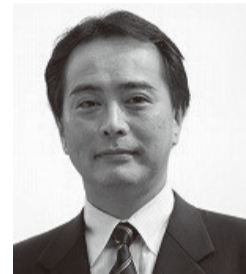
藤川しんいち



小林正夫



えさきたかし



河合孝典

参議院議員選挙

本年7月から、18歳投票権がはじまります!!

一般質問から

低投票率からの脱却を

投票所を利便性の高い所に
設置することを提案しました。

今度の参議院選挙は、18歳投票権が始まる選挙制度の中でも大きな節目の選挙となります。しかし、選挙に対する有権者の関心は薄れる一方で、70%台を保ってきた投票率は平成2年の73.31%を最後に下落をはじめ、平成26年の衆議院議員選挙における投票率は52.66%、近年最も投票率が低かった昭和55年の74.57%と比べると20%以上も下落してしまっています。

千葉市では、こうした投票率の低下に歯止めをかける方策の一つとして、期日前投票所をこれまでの市のコミュニティセンターから駅前などの集客施設に設置したところ、期日前投票所の利用者

が3〜6倍に増加したとの事です。千葉市の担当の方へ話を聞き、これは本市でも検討に値すると思われ、質問を行いました。

市の答弁は慎重なものでしたが、政府も駅前などに投票所を設置することについて前向きな姿勢を示しています。

既にその動きを始め、成果を上げている自治体が存在している中で、駅前や人が多く集まる集客施設などへの投票所設置は、近い将来当たり前の姿になるであろうと簡単に想像できます。

また、予算についてもこれまでであった場所からの移設であるので、人的な経費が増える事もなく、同じ経費で利用者の満足度が向上するのならば、まず取り組みを始めるべきであろうと思えます。

熊本地震
被災地へ支援物資を届ける

ボランティア受付



4月14日と16日、熊本県や大分県で発生した地震は、両県内に多大な被害を与えました。

私が今年度事務局を務めている超党派の地方市議会議員で構成する「全国若手市議会議員の会九州ブロック」ではこの一連の地震に際し、現地の所属議員からの救援要請を受け、熊本県宇土市と八代市、熊本市へ避難物資の緊急搬送や、ボランティア活動などを行ってきました。

被災地では災害初期は食糧支援、その後土嚢袋やビニールシートなどの片づけ道具の支援要請から、現在では継続して片付けなどを



行うボランティアなどが求められています。

避難所が深刻な食糧難であるとの連絡を受け、物資は集まっているが、末端の避難所にまで届いていない現状を知りました。

物資があるところと、末端まで届いていない周辺の市町村という事実を垣間見た時、避難所の運営だけでなく避難所と市、県との連絡体制や物資の供給についてこれまでよりも詳細な連絡体制を構築しておかなければ、いざという時に機能しないのではという事を痛感しました。こうした事例を教訓とし、本市での災害にしっかりと備えるよう、議論して参ります。

活動記録

- 一月 三日 北筑高校十四期同窓会
- 四日 新日鉄住金八幡製鉄所新年賀詞交換会
- 六日 横浜へイースターズ今永昇太君の北九州市長への表敬訪問に同行
- 八日 北九州商工会議所新年賀詞交換会
- 九日 会派団会議
- 十日 古賀ゆきひと事務所開き
- 十一日 地元地域餅つき
- 十二日 消費出初式
- 十三日 地域ごとと焼き
- 十五日 北九州青年会議所 新年例会
- 十六日 九州ブロック 佐賀研修
- 十七日 折尾商連賀詞交換会
- 十八日 地域ごとと焼き
- 十九日 民主党青年委員会総会で上京
- 二十日 経済港湾委員会
- 二十一日 党福岡県連 青年委員会
- 二十二日 会派団会議
- 二十三日 ケアマネさんとの意見交換会
- 二十四日 党大分県連
- 二十五日 党県連 広報委員会
- 二十六日 折尾総合開発地域を行政視察
- 二十七日 党福岡県連 議団会議
- 二十八日 党福岡県連 局長会議(日帰り)
- 二十九日 地域餅つき
- 三十日 陣原地区社会福祉協議会五十周年式典
- 三十一日 党九州総支部 常任幹事会
- 二月 一日 古賀ゆきひと来所
- 二日 泊正明元市議会議員の叙勲受賞を祝う会
- 三日 北九州マネジメントクラブ勉強会
- 四日 PTA役員会
- 五日 党福岡県連青年委員会
- 六日 広報委員会
- 七日 青年委員会インターン交流会
- 八日 平成二十八年度予算議会 勉強会
- 九日 PTA会議
- 十日 平成二十八年度予算議会 勉強会
- 十一日 北九州マラソンボランティア
- 十二日 平成二十八年度予算議会 勉強会
- 十三日 大久保むが応援団会議
- 十四日 平成二十八年度二月議会開会日
- 三月 二日 本会議
- 三日 古典落語を守る会臨時総会
- 四日 本会議
- 五日 馬島清掃団
- 六日 キラヴァンツ北九州応援
- 七日 本会議
- 八日 本会議
- 九日 経済港湾委員会
- 十日 本会議 予算特別委員会
- 十一日 和歌山県視察
- 十二日 予算特別委員会
- 十三日 予算特別委員会
- 十四日 予算特別委員会
- 十五日 地元小学校卒業式
- 十六日 九州国際大学学位授与式
- 十七日 九州国際大学学位授与式
- 十八日 ミットキックオフミーティング
- 十九日 地域国政県政市政報告会
- 二十日 予算特別委員会 市長質疑
- 二十一日 フリバー柳川総会・懇親会
- 二十二日 経済港湾委員会
- 二十三日 党県連 広報委員会
- 二十四日 党県連 広報委員会
- 二十五日 柳川清掃活動
- 二十六日 平成二十八年度二月議会開会日
- 二十七日 北九州療育センター八幡分所開所式
- 二十八日 党福岡県連青年委員会
- 二十九日
- 三十日
- 三十一日